

戦時文庫

独立混成中三師旅団司令部

年、月、日	概要
昭和六 二 三	初代 陸軍少将(陸軍中將) 二代 陸軍大佐(陸軍少将) 編成完結の状況 服部尚志
二 七	編成完結 東京、近衛歩兵中三連隊補充隊 行動の概要及び其の日時
三 九	東京、岳川駅発列車に依り駐屯地たるべき印度支那に向上前進開始
三 二	福岡県門司市到着
三 天	門司港出帆 上海に向う
三 三	上海港に到着したるも、同地着警施設等の関係上、南京に転進の意 揚子江を 同地に向う
三 四	南京上陸 一時、同地附近の警備に任ず
五 二 二	南京発列車に依り、上海に転進

要

0521

年月日	概	要
略五 二 三	同年同月三日より、同地附近の警備に任ず	輸送船により、上海出港、印度支那西貢に歸る
三 二	遂次、台湾基隆に、同年同月	高雄に寄港
三 四	高雄出帆	
三 六	印度支那、西貢に上陸	
三 五	西貢発列車に依り、中部印度支那警備の爲、岷港に前進す	岷港着
二 三	同地附近の警備に任ず	明号作戦に参加
昭三 五 三 九	各隷下、部隊（独立歩兵中一八九大隊） 同カ一九〇大隊、同カ六七二大隊	同六七三大隊、旅団砲兵隊、同工兵隊、同通信隊）及び配属若干の部隊を以て担任中部印度支那に於ける仏印軍の処理を行う。
四 五	各部隊は夫々作戦準備の周到及び巧妙なる作戦に依り、迅速に戦果を護得して	所期の目的を達成し、細接敵の下皇軍の威武を發揚せり
五 五	旅団長永野少将、住陸軍中將	補陸軍歩兵学校附
五 三	依然中部印度支那の警備に任ず	

年月日	概	要
五月五	新旅团长 陸軍大佐 服部尚志着任 同年	
六月	任陸軍少将	
八月	停戦詔書発布	
八月	復員下令	
三月	岷港発列車に依り 内地帰還の為 海防に集結	
三月	輸送船に依り海防出帆	
四月	發知果名古屋に上陸	
四月	復員式終了	
四月	復員完結	
	兵 力	
	編成当時	
	将校以下 一六三名	
	復員当時	
	将校以下 二一六名	
	右人員中	
	入院 八名	
	生死不明九名	
	死亡 七名	
	なし	
	復員状況	

(5/3)

0523

	年 月 日
<p>田 名</p> <p>復員完結、 其の他隷下部隊は悉く未完結</p>	<p>必死通信隊 復員完結</p> <p>要</p>

(574)

0524